（様式第19号）

平成２９年度　モニタリング結果報告書（里山林保全タイプ）

１　活動の目標

|  |
| --- |
| 現状の密生した落葉広葉樹林を適正な密度となるよう間伐し、見通しがよく安全で、生物多様性保全、防災などの機能が十分に発揮できる森林に誘導する。 |

２　活動実施前の標準地の状況（平成２９年度）

|  |  |
| --- | --- |
| 標準地の状況 | コナラを主とし密生した落葉広葉樹林で、調査区（標準地）内の本数23本、平均樹高12ｍで相対幹距比は17.4であった。(詳細は別紙参照)林野庁の指針に従い3年後に2ポイント以上改善し20.2と誘導するには、標準地で6本の伐採を行う必要がある。 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 写真１調査区の現況写真１（整備前） | 写真２調査区の現状写真２（整備前） | 真３モニタリング調査の実施写真等 |

３　活動１年目の標準地の状況（平成２９年度）

|  |  |
| --- | --- |
| 標準地の状況 | 採光、樹木の形質、樹種のバランスなどを考慮して3本を伐採し、相対幹距比を18.6まで改善した。 |
| 目標達成度 | 初年度の目標はおおむね達成できた。 |
| 次年度に向けた改善策 | 残存樹木の平均樹高を再確認し、相対幹距比を再計算する。また、補完的に希少種（キンラン）の生息数を確認する。 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 写真１調査区の現況写真１（1年目整備後） | 写真２調査区の現状写真２（1年目整備後） | 真３モニタリング調査の実施写真等 |

４　活動２年目の標準地の状況（平成３０年度）

|  |  |
| --- | --- |
| 標準地の状況 | 採光、樹木の形質、樹種のバランスなどを考慮して3本を伐採し、相対幹距比を20.2まで改善した。　また補完的に実施した、希少種調査でキンラン7株の生存が確認できた。 |
| 目標達成度 | ２年目の目標はおおむね達成できた。 |
| 次年度に向けた改善策 | 当初目標の相対幹距比の改善は達成したが、あらためて危険木などを確認し、安全で生物多様性の高い森づくりに必要な整備内容を固めたい。 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 写真１調査区の現況写真１（2年目整備後） | 写真２調査区の現状写真２（2年目整備後） | 真３モニタリング調査の実施写真等 |

５　活動３年目の標準地の状況（平成３１年度）

|  |  |
| --- | --- |
| 標準地の状況 | 相対幹距比の当初改善目標は達成したが、現地の状況から更に明るく利用しやすい雑木林とするため、照度確保を目的に補完的に2本を伐採した。相対幹距比は21.5となった　希少種調査でキンラン10株の生存が確認できた。 |
| 目標達成度 | 里山林保全タイプとしての整備は、３年目で目標を達成した。 |
| 次年度に向けた改善策 | 当面この状態で維持をしたい。今後樹高変化などによる相対幹距比の変化があった場合は、適宜対応したい。 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 写真１調査区の現況写真１（2年目整備後） | 写真２調査区の現状写真２（2年目整備後） | 真３モニタリング調査の実施写真等 |

６　活動４年目の標準地の状況（平成〇年度）　　　　　　　　　　写真

|  |  |
| --- | --- |
| 標準地の状況を記載 |  |
| 目標達成度 |  |
| 次年度に向けた改善策 |  |

７　活動５年目の標準地の状況（平成〇年度）　　　　　　　　　　写真

|  |  |
| --- | --- |
| 標準地の状況を記載 |  |
| 目標達成度 |  |

（注）目標の設定及び標準地の状況の記載については、別に定めるガイドラインを参考とすること。